

研究実施のお知らせ

2026年4月15日 ver.1.1

研究課題名

脊髄くも膜下モルヒネを使用した胸腔鏡下肺切除術の術後疼痛管理：後ろ向き比較研究

研究の対象となる方

2025年4月から2026年3月の間に島根大学医学部附属病院で胸腔鏡下肺切除術受けられた方

研究の目的・意義

脊髄くも膜下腔へのモルヒネ少量投与（以下脊髄くも膜下モルヒネ）は、下腹部手術や下肢手術を中心に術後鎮痛のために行われてきました。肺切除術でも使用されることはありますが、現在のところあまり一般的な方法とは言えません。肺切除術でのモルヒネ使用量は下腹部手術や下肢手術での使用量とは異なりますし、肺切除術での脊髄くも膜下モルヒネの鎮痛効果や副作用の頻度については現在のところあまりはっきり分かっていません。島根大学医学部附属病院では、最近この脊髄くも膜下モルヒネによる術後鎮痛を取り入れるようになりました。本研究では、胸腔鏡下肺切除術受けられた患者さんを対象に、脊髄くも膜下モルヒネの効果と副作用について、術後鎮痛法として一般的なフェンタニル持続投与方法との比較検討を行います。この調査結果が、術後疼痛管理の質の向上につながることを期待しています。

研究の方法

対象になる方のカルテから以下のデータを収集します。

- 1) 患者背景：年齢、性別、身長、体重、ASA-PS (American Society of Anesthesiologists physical status)
- 2) 手術・麻酔に関する情報：手術術式、手術時間、麻酔時間、麻酔方法、肋間神経ブロックの有無、使用した麻酔薬と使用量、輸液量、輸血量、出血量、尿量、水分出納
- 3) 術後に関する情報：術後3日目までの疼痛スコア (Numerical Rating Scale)、使用した鎮痛剤の種類・量と使用時間、術後24時間以内の呼吸回数の最低値、徐呼吸（10回/分未満および12回/分未満）の発生時間と持続時間、酸素3L/分以上使用の有無、呼吸補助の必要性、ナロキソン投与の有無、掻痒感の有無と対処、嘔気嘔吐の有無と制吐剤使用、尿閉の有無、その他合併症

以上の情報について、脊髄くも膜下モルヒネ投与を受けた方と、受けなかった方（フェンタニルの持続投与を行った方）との間で比較検討したいと思います。

収集したデータは、島根大学医学部麻酔科学講座の外部から用意にアクセスできないPCに保管します。PCにはセキュリティを設定し、パスワードで使用可能な研究者を制限します。

この研究に関するデータ等は、個人を特定できないように記号化した番号により管理します。あなたの個人情報を個人が特定できる形で使用することはありません。また、お名前などのリストは収集データとは別に、施錠可能な場所で研究責任者が適切に保管します。外部への持ち出しは行いません。

研究の期間

2026年5月（研究許可後）～2027年5月

研究の公表

この研究から得られた結果は、医学関係の学会や医学雑誌などで公表します。その際にあなたのお名前など個人を識別できる情報を使用することはありません。

研究組織

この研究は次の機関が行います。

研究責任者：

島根大学医学部附属病院手術部 青山由紀

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2027年3月までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学医学部附属病院手術部 青山由紀

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2295 FAX 0853-20-2292